

# イワギリソウ



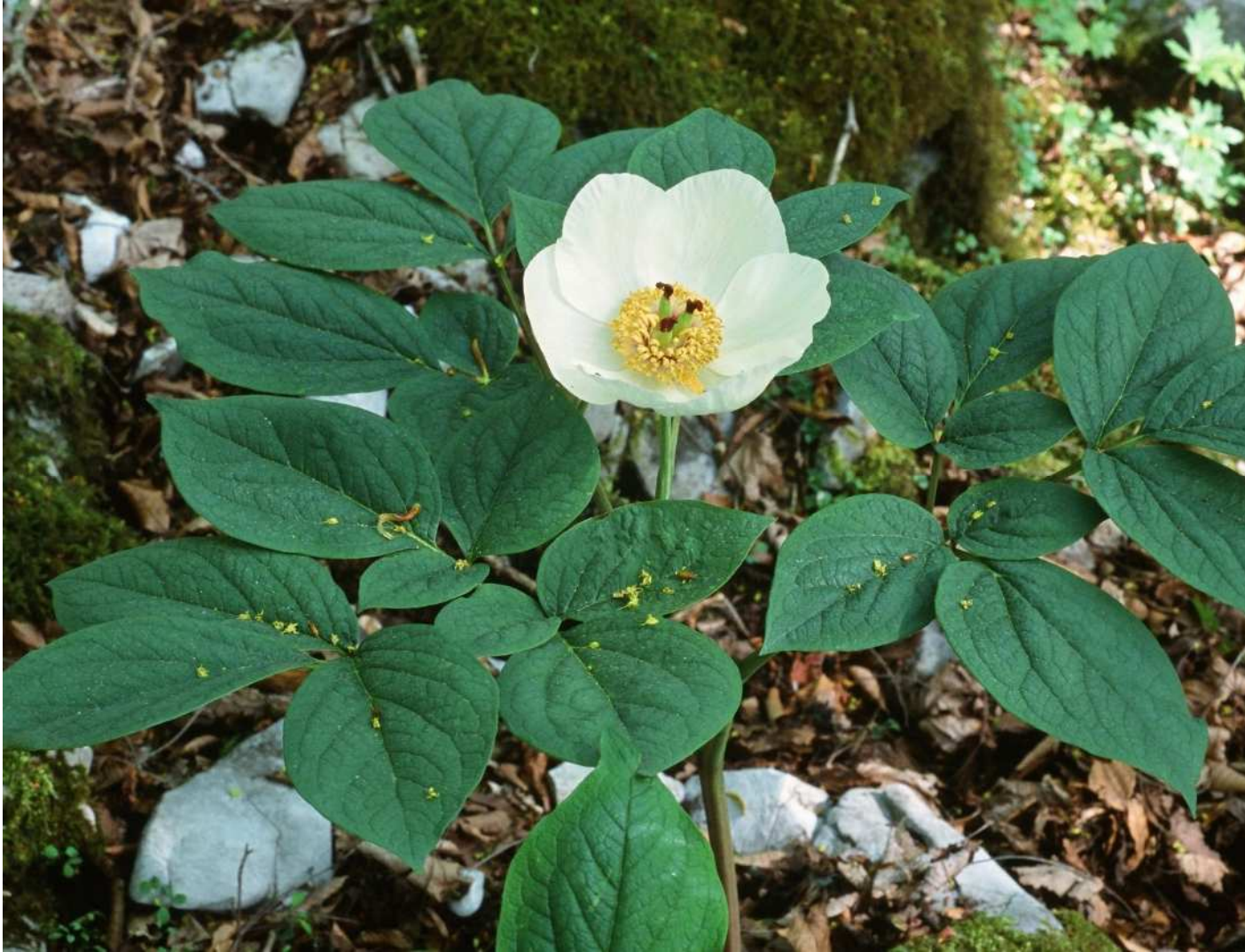
※画像提供：片野田 逸朗氏

# イワギリソウ

分類群	維管束植物	科名	イワタバコ科
和名	イワギリソウ		
学名	<i>Opithandra primuloides</i>		
カテゴリー	鹿児島県	絶滅危惧Ⅰ類	
	環境省	絶滅危惧Ⅱ類	
基礎情報	<p>陰地の岩壁に着生する多年草。茎は短く葉が束生する。 葉柄は長さ3～10cm。葉身は長さ3～15cm、幅2～10cm、有毛。花茎は長さ10～20cm。苞は長さ3～6mm。花柄は長さ2～4cm。萼は長さ5～6mm。花期は5～6月、花冠は紅紫色、長さ約2cm、外面に軟毛があり、裂片は長楕円形で、長さ6～7mm。花柱は1mm。朔果は長さ2.5～4.5cm、幅3～4mm。染色体数は<math>2n=34</math>。 本州（近畿以西）～九州に分布する。2017年環境省レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。白い軟毛のある葉の形や花の形が、キリを思わせるので&lt;岩桐草&gt;の和名がある。</p>		
分布域	内	磯間嶽，野間岳	
	外	本州（近畿以西）～九州	
生息状況	県内の生息地が限定されており、過度の採取により絶滅の恐れがある。		
備考	園芸用の採取が減少の主要因とされる。 大分県が県希少種条例により保護している。		

※解説出典：鹿児島県レッドデータブック2016  
"改訂新版 日本の野生植物 5（2017年）平凡社"  
環境省レッドデータブック2014

# ヤマシャクヤク



※画像提供：片野田 逸朗氏

# ヤマシャクヤク

分類	群	維管束植物	科	名	ボタン科
和名	名	ヤマシャクヤク			
学名	名	<i>Paeonia japonica</i>			
カテゴリー	—	鹿児島県 絶滅危惧I類 環境省 準絶滅危惧種			
基礎情報		<p>夏緑広葉樹林の林床に生える多年草。根茎は丈夫で経1cmになり、水平に伸びる。茎は高さ30～50cm、無毛。基部は楕円形で鞘状、膜質の鱗片がある。中部の茎葉は2～3個、2回3出複葉葉身は長さ3～15cm、幅2～10cm、有毛。花茎は長さ10～20cm。苞は長さ3～6mm。花柄は長さ2～4cm。萼は長さ5～6mm。花期は5～6月。花は茎頂に単生し、経(4～)6～10cm、白色、直立市、半開する。萼片は3(～5)個、広卵経～広楕円形、長さ1～2cm、淡緑色、果期に反曲する。花弁は6(～9)個、倒卵形、長さ3.5～5.5cm、幅2～4cm、芳香がある。雄蕊は長さ1～1.5cm、葯は狭楕円形、長さ5～8mm、花糸は長さ6～8mm、白色。雌蕊は2～3、無毛。柱頭はゆるやかにまたは強く反曲し、赤紫色を帯びる袋果は楕円状倒卵形、長さ2.5～4cm、斜開して上半部は内曲し、稔性のある種子は球形、長さ6～7mm、黒色。</p> <p>北海道・本州・四国・九州に分布する日本固有種。石灰岩地に好んで生える傾向がある、和名は漢方薬のシャクヤク(芍薬)に姿形が似て、山に自生することによる。</p> <p>葉が有毛のものをケヤマシャクヤク<i>f. hirsuta</i> H. Haraとして区別することもある。朝鮮半島産の植物は、葉が白色で葉が無毛のため本種とされることがあるが、茎葉の頂小葉の先端が鋭形となる倒卵形で、雌蕊の柱頭が強く反曲する点でベニバナヤマシャクヤクに当たる。</p>			
分布域	内	伊佐市(大口の県境)			
	外	北海道, 本州, 四国, 九州			
生息状況		県内の生息地が限定され、狭い範囲に群生し、過度の採取により絶滅する恐れがある。			
備考		大分県が県希少種条例により保護している。また、近縁種のベニバナヤマシャクヤクは宮崎県の条例指定種。			

※解説出典：鹿児島県レッドデータブック2016

"改訂新版 日本の野生植物 2 (2016年) 平凡社"

# サルメンエビネ



※画像提供：片野田 逸朗氏

# サルメンエビネ

分類群	維管束植物	科名	ラン科
和名	サルメンエビネ		
学名	<i>Calanthe tricarinata</i>		
カテゴリー	鹿児島県	絶滅危惧Ⅰ類	
	環境省	絶滅危惧Ⅱ類	
基礎情報	<p>冷温帯の落葉樹林下に生える。球茎は球状。 葉は3～4個，倒卵状狭長楕円形，無毛，急鋭尖頭，長さ15～25cm，幅6～8cm。花茎は高さ30～50cmになり，花序，子房ともに短毛がある。花は4～5月，7～15花を総状にまばらにつける。苞は細長い三角形，長さ5～8mm，鋭尖頭。萼片，側花弁ともに黄緑色。萼片は狭長楕円形，長さ20～25mm，幅7～15mm，鋭頭。側花弁は広頭披針形，萼片より少し小さく，鋭頭。唇弁は紫褐色～紅褐色，萼片と同長で3裂する。側裂片は小さく，中裂片は大きくてほぼ四角形，先端の縁に襞があり，中央に3条のとさか状突起がある。 北海道～九州，朝鮮半島・台湾・中国～ヒマラヤに分布する。和名は&lt;猿面海老根&gt;で，唇弁が赤みをおびてしわが寄っているのを猿の顔に見立てたもの。</p>		
分布域	内	熊本県県境、霧島山、高隈山に極稀産。	
	外	北海道～九州	
生育状況	県内の生育地が限定されており，生育環境の悪化や過度の採取により絶滅の恐れがある。		
備考	園芸用の採取が減少の主要因とされる。 宮崎県が県希少種条例により保護している。		

※解説出典：鹿児島県レッドデータブック2016

"改訂新版 日本の野生植物 1 (2015年) 平凡社"

環境省レッドデータブック2014

# ヤシガニ



※画像提供：鈴木 廣志氏

# ヤシガニ

分類	群	エビ目	科名	オカヤドカリ科
和名	名	ヤシガニ		
学名	名	<i>Birgus latro</i>		
カテゴリ	鹿児島県	絶滅危惧Ⅰ類		
	環境省	絶滅危惧Ⅱ類		
基礎情報	<p>鹿児島県が分布北限。分布域は広いが各生息地域で食用とされ、近年の海岸護岸工事により生息地と繁殖地が遮断され、生息数の減少を招いている。県内では近年本種の目撃例が激減している。</p> <p>甲長120mmになる大型種。甲はよく石灰化しハート形をし、ハサミ脚は左側が常に大きい。生時の体色は、青みをおびた紫色と、赤みをおびた紫色がある。繁殖期は夏季で、メガロパ幼生になると、宿貝を探して、寄居することが報告されている。</p> <p>海岸に近い陸上部に生息。昼間はアダン林などの根本の穴に潜み、日没後これらの隠れ場から這い出してくる。</p> <p>食用のための乱獲ならびに海岸線の護岸工事による生息域と繁殖地との分断などにより、生息密度は極めて低くなっている。</p>			
分布域	県内	小宝島, 奄美大島, 徳之島等		
	県外	東京都(小笠原諸島), 沖縄県		
生育状況	<p>護岸の建設による海域と陸域の分断が本種の新規加入を阻害し、鹿児島県内における絶滅の恐れがある。</p>			
備考	<p>脚を広げた幅が1m、重さは4~6kgに達するという世界最大の陸生甲殻類であり、その成長速度は非常に遅く体重およそ1kgになるのに15年程かかるとされている。</p> <p>沖縄県内多良間村や宮古島市はヤシガニ保護条例を制定し、本種の保護を図っている。</p>			

※解説出典：鹿児島県レッドデータブック2016  
 “改訂新版 日本の野生植物 1 (2015年) 平凡社”  
 環境省レッドデータブック2014



# リュウキュウサワガニ



※画像提供：鈴木 廣志氏

# リュウキュウサワガニ

分類群	エビ目	科名	サワガニ科
和名	リュウキュウサワガニ		
学名	<i>Geothelphusa obtusipes</i>		
カテゴリー	鹿児島県	絶滅危惧Ⅰ類	
	環境省	準絶滅危惧種	
基礎情報	<p>奄美諸島に固有の種で、河川改修工事や自然災害（土砂崩れ）などにより、生息環境が減少し、最近の調査で生息域並びに生息密度が大幅に減少した。</p> <p>甲幅20mm前後で、サワガニよりも小型の種類で、甲の中心部以外の背面には顆粒やしわがある。ハサミ脚の腕節と掌節の上面には小さくて短い棘が散在する。夏季が主たる繁殖時期で、直達発生により、稚ガニで孵化する。</p> <p>河川上流域や渓流域に生息し、水中の石の下や河床に穴を掘って棲んでいる。陸上に出ることは極めて少ない。生息地域が減少し、各地域での生息密度は極めて低い。</p>		
分布域	内	奄美大島、徳之島	
	外	なし	
生育状況	奄美大島及び徳之島の固有種で、河川改修工事等による生息環境の減少などにより、その生息数が極めて減少している。		
備考	<p>淡水サワガニ類はアクアリウムなどで飼育する愛好家が一定数おり、インターネット上で、近縁種の商取引が確認されている。</p> <p>愛好家による捕獲圧も個体数の少ないサワガニ類にとって脅威となっている。</p> <p>沖縄県の島嶼部固有のサワガニ類は複数種が種の保存法や沖縄県希少種条例により保護されている。</p> <p>同属のミシマサワガニは県天然記念物に指定されている。</p>		

※解説出典：鹿児島県レッドデータブック2016  
環境省レッドデータブック2014